

令和7年度

病害虫情報(第10号)1・2月予報

令和7年12月26日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333

ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

【内容】

I 1・2月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例	1
【水稻、カンキツ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、促成イチゴ、早春キャベツ、冬ダイコン】	
II 1・2月の気象予報と病害虫発生予報の根拠	6

○ 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。

○ 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和7年12月23日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 1・2月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

【水稻】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例
			♦防除のポイント
縞葉枯病	—	—	♦ 9月調査では、縞葉枯病の発生は平年よりやや少ない。媒介虫のヒメトビウンカの越冬場所を減らすため次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②畦畔や休耕田の除草を徹底する。
スクミリンゴガイ	—	△	♦ スクミリンゴガイの生存率を下げる目的で次の対策を実施する。 ①冬期に水田を複数回耕起すると殺貝効果が高い。耕うんは走行速度を遅くし、ロータリーの回転を速くして浅く細かく耕す。 ②休耕田も発生源になるので、できるだけ①の対策を実施する。 ③未発生水田への貝の持ち込みを防止するため、トラクターなどに付着した泥は使用後に洗浄する。他水田でも使用する場合は、未発生水田の耕起を先に行うなど順番を考慮する。 ④用排水路で生存している貝の対策として泥上げを行う。地域全体で実施すると効果が高い。 ♦ 詳細は、以下の防除対策資料を参照すること。 神奈川県スクミリンゴガイ防除対策マニュアル（農業技術センター）

【カンキツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例
			♦防除のポイント
ハダニ類 ミカンハダニ	やや少	○	マシン油乳剤(95%, 97%, 98%) 等 ♦ マシン油乳剤は商品によって使用基準が異なるので、ラベルの記載に従うこと。
カイガラムシ類	—	○	♦ 1月中旬までに防除する。ただし、この時期に防除できなかった園では、ハダニ類を対象に収穫後の春期に防除する。 ♦ カイガラムシ類の発生園では、冬期の散布防除を厳守する。

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和7年度・第10号・1・2月) 神奈川県農業技術センター

【促成トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
灰色かび病	—	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, —:ダクト内投入] 灰色かび病:7.5～15g/10a/日、うどんこ病:15g/10a/日												
うどんこ病	—	○	(予) フルピカフロアブル [前日, 4回] 灰色かび病:2,000～3,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日, 3回] 2,000～4,000倍 (予・治) ポリオキシンAL水和剤 [前日, 3回] 灰色かび病:1,000倍 (予・治) パンチョTF顆粒水和剤 [前日, 2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ パンチョTFは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) ベミデタッチ [前日, —] うどんこ病:500倍 等 ◆ 近年、4月以降にうどんこ病の発生が目立つ。ほ場内の菌密度を低く抑えるために冬期から防除する。												
コナジラミ類 タバココナジラミ	—	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日, 2回] コナジラミ類:2,000～3,000倍												
アブラムシ類	—	○	スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] アザミウマ類:5,000倍 チエス顆粒水和剤 [前日, 3回]												
アザミウマ類	—	○	コナジラミ類、アブラムシ類:5,000倍 マッチ乳剤 [前日, 4回] コナジラミ類:2,000倍、アザミウマ類:1,000～2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] コナジラミ類、アブラムシ類:300倍 ベミデタッチ [前日, —] コナジラミ類:500倍 等 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 ◆ タバココナジラミについて、防除情報(病害虫情報 号外 第7号)を令和7年12月23日に発表している。 ◆ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、害虫防除を徹底する。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> <tr> <td>CMV等(トマトモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

- ▶ 訪花昆虫・天敵を利用する際は使用薬剤の影響日数に注意して薬剤の選択を行う。
- ▶ 農薬散布の際は、マルハナバチ巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和7年度・第10号・1・2月) 神奈川県農業技術センター

【促成・半促成キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント										
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予) ジマンダイセン水和剤 [前日,3回] 600~800倍 (予) ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 600~800倍 ☞ 上記2剤は有効成分が同じであるため、どちらかを使用する。 (予・治) ランマンフロアブル [前日,4回] 1,000~2,000倍 等										
うどんこ病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,12回] 1,000倍 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期,ー] 1,000~2,000倍 (予・治) ファンベル顆粒水和剤 [前日,3回] 1,000倍 等 ☞ ファンベルは混合剤。総使用回数に注意する。										
コナジラミ類	—	○	【育苗期:粒剤施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] コナジラミ類、アブラムシ類:1g/株										
アブラムシ類	—	○	アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類:1~2g/株、アブラムシ類:1g/株										
アザミウマ類	—	○	【育苗期:灌注】 モベントフロアブル [育苗期後半～定植当日,1回:株元灌注] 500倍 コナジラミ類、アブラムシ類:25~50mL/株 アザミウマ類:50mL/株 ベリマークSC [育苗期後半～定植当日,1回:灌注] コナジラミ類、アザミウマ類:原液25mLを10~20Lに希釈/400株 アブラムシ類:原液25mLを2~20Lに希釈/400株 【定植時:粒剤施用】 ダントツ粒剤 [定植時,1回:植穴処理土壤混和] コナジラミ類、アブラムシ類:1~2g/株 ミナミキイロアザミウマ:2g/株 【育苗期～定植後:散布】 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、アザミウマ類:2,000~4,000倍 コナジラミ類:2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍 等 ◆ タバココナジラミについて、防除情報(病害虫情報 号外 第7号)を令和7年12月23日に発表している。 ◆ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、害虫防除を徹底する。 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。										
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(キュウリモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(キュウリ退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 施設開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを2重被覆する。 ◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類	CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)		MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類												
CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類												
BPYV(キュウリ黄化病)													
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類												

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和7年度・第10号・1・2月) 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
灰色かび病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - : ダクト内投入] 灰色かび病: 10～15g/10a/日、うどんこ病: 15g/10a/日
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッショングリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日(生育期), 5回] 灰色かび病: 2,000倍、うどんこ病: 2,000～4,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日, 4回] 灰色かび病: 1,500倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) カリグリーン [前日, -] 灰色かび病: 800倍、うどんこ病: 800～1,000倍 (治) エコピタ液剤 [前日, -] うどんこ病: 100倍 等
アブラムシ類	やや多	○	ウララDF [前日, 2回] アブラムシ類: 2,000～4,000倍、コナジラミ類: 2,000倍
コナジラミ類 オンシツ コナジラミ タバコ コナジラミ	やや少	○	モベントフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 粘着くん液剤 [前日, -] アブラムシ類、コナジラミ類: 100倍 エコピタ液剤 [前日, -] アブラムシ類: 100倍 コナジラミ類: 100～200倍
アザミウマ類	並	○	サンクリスタル乳剤 [前日, -] アブラムシ類、コナジラミ類: 300倍 サフオイル乳剤 [前日, -] アブラムシ類、コナジラミ類: 300～500倍 等
ハダニ類	やや少	○	ダニコングフロアブル [前日, 1回] 3,000倍 粘着くん液剤 [前日, -] 100倍 エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 サフオイル乳剤 [前日, -] 300～500倍 等

[防除要否] ○: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし

[使用時期] 「収穫＊日前まで」を「＊日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

- ▶ 訪花昆虫・天敵を利用する際は使用薬剤の影響日数に注意して薬剤の選択を行う。
- ▶ 農薬散布の際は、ミツバチ巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

病害虫情報 (令和7年度・第10号・1・2月) 神奈川県農業技術センター

▼三浦半島地区野菜▼

【早春キャベツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒腐病	やや少	○	(予・治) バリダシン液剤5 [7日,5回] 800倍 (治) カセット水和剤 [7日,3回] 1,000倍 ☞ カセットは混合剤。総使用回数に注意する。 等
菌核病	やや多	○	(予・治) ロブラール水和剤 [7日,4回] 菌核病:1,000倍 (予・治) ゲッター水和剤 [7日,2回] 菌核病:1,500倍 ☞ ゲッターは混合剤。総使用回数に注意する。 等
灰色かび病	並	○	(予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [3日,3回] 2,000~3,000倍 ◆ 春キャベツへの感染を防ぐためにも、発病株は菌核が形成される前に除去しほ場外で処分する。 等
アブラムシ類	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [3日,2回] 2,000~3,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000~3,000倍 等
コナガ	やや少	○	アファーム乳剤 [前日,3回] 1,000~2,000倍 トルネードエースDF [7日,2回] 1,000~2,000倍 等

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

【冬ダイコン】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒斑細菌病	やや少	○	(予) Zボルドー [発病前~発病初期,-] 500倍 (治) カセット水和剤 [14日,3回] 1,000倍 ☞ カセットは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ Zボルドーで薬害が懸念される場合は、クレフノン(100~200倍)を加用する。 等
アブラムシ類	やや多	○	アルバリン 又は スターカル顆粒水溶剤 [7日,2回] 2,000~3,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000倍 等
コナガ	やや少	○	アファーム乳剤 [7日,3回] 1,000~2,000倍 トルネードエースDF [21日,2回] 2,000倍 等

[防除要否] ○:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報 (令和7年度・第10号・1・2月) 神奈川県農業技術センター

II 1・2月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 1・2月の気象予報(気象庁12月23日発表3か月予報)

〈天 氣〉

1月 平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

2月 平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1月	気温	40%	30%	30%
	降水量	40%	40%	20%
2月	気温	30%	40%	30%
	降水量	40%	40%	20%

(2) 1・2月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	ミカンハダニ	-	やや少	1) 県予察ほ(根府川)では、無防除区で発生が平年より少なく、慣行防除区で発生が平年よりやや少ない(一)。 2) 10月の巡回調査では、発生が平年並。(±) 3) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)
促成イチゴ	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(一) 2) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(平塚)の黄色水盤への飛来は、平年よりやや少ない。(一) 3) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	オンシツコナジラミ タバココナジラミ	少 少	やや少 並	1) 巡回調査では、オンシツコナジラミの発生は平年よりやや少なく(一)、タバココナジラミの発生は平年並(±)。 2) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 青色粘着板(平塚、大磯)への捕殺虫数は、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマともに平年並。(±) 3) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	ハダニ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(一) 2) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)

※「発生量」程度: 蔊 > 多 > 中 > 少 > 無 年比: 多 > やや多 > 並 > やや少 > 少

「予報の根拠」……… (+):多発要因 (-):少発要因

病害虫情報

(令和7年度・第10号・1・2月) ··· 神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
早春 キャベツ	黒腐病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(−) 2) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	菌核病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来数は、平年より多い。(+) 3) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(−) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少なく、県予察ほ(三浦)では平年より少ない。(−) 3) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)
冬ダイコン	黒斑細菌病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(−) 2) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	ナモグリバエ	少	少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(−) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色粘着板への成虫誘殺数は、平年より少ない。(−) 3) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来数は、平年より多い。(+) 3) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(−) 2) 三浦のフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりやや少なく、県予察ほ(三浦)では平年より少ない。(−) 3) 1月、2月ともに気温は平年並、降水量は平年並か少ない予報。(±)

※「発生量」····· 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少

「予報の根拠」····· (+): 多発要因 (−): 少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターOPテイ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス、ネクスター、パレード20)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回

★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターOPテイ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

★イチゴ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターOPテイ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(スコア、トリフミン、ラリー)の場合:1作1回
 - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
 - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回